

名駅西「リニア建設」予定地を歩く

2年ほど前、2016年7月刊行の建設政策研究所『建設政策』168号に、下記「随想」を寄稿したことがある。「自己PR」を兼ねた思い出の随想であり再掲したい。

まち歩きと変わりゆく街

昔からまち歩きが好きだ。地下鉄の駅をひとつ前で降り、ふらりと歩く。健康と気分転換のために。たいした用もないのに、街なかをぶらつく。とりわけ商店街や下町風情の街並みに誘われる。旅の途中でも、商店街を訪ねることが多い。地域の「いま」を垣間見ることができ、地元の人たちとのふれ合いも楽しめる。広い通りより、曲がりくねった細い路地は、なにかと「発見」の楽しみがある。



名古屋駅前、地元では「名駅」(メイエキ)と呼ぶ。名駅界隈をまち歩きしていたら、「愚痴聞き地蔵尊」に出会うことができた。もう10年ほど前のことだ。名駅から歩いて10分ほどの桂芳院のお地蔵さん。お地蔵さんの前にかがんで、日ごろの愚痴を聞いてもらう。ゼミの学生を連れて行ったら、「就活」での愚痴をこぼしていた。

名駅に来ると、ここまで足をのぼすことが多い。最初に訪ねた頃より、お寺はすっかり高層ビルに囲まれてしまった。お地蔵さんも愚痴をこぼしていることだろう。大学の講義や講演などで「宣伝」してきた。最近では、ブログなどでも紹介され、多くの人に知られるようになってきた。久しぶりに訪ねると、写真のようにお地蔵さんは赤い衣裳であった。季節ごとに「衣替え」しているようだ。お地蔵さんの前にかがみ、日ごろの愚痴をこぼして寺をあとにした。

今回訪ねたのはお地蔵さんに会うだけではなく、名駅周辺の変りゆく街をこの目で確かめるためだ。名駅周辺は、超高層ビルの建設が相次ぎ、開発ラッシュである。周辺の公示地価は、全国有数の上昇率。そして今、リニア中央新幹線の名古屋駅建設のため用地買収が進められている。買収対象は名駅の東西にまたがる約2万3千平方メートル。過去に例のない都心部での大規模な用地買収である(朝日新聞4月14日朝刊)。

用地買収はJR東海から地権者との交渉の委託を受けた名古屋市の外郭団体「名古屋まちづくり公社」が実施している。同記事によると、権利関係者が「横にも縦にも広がり複雑」であり、買収は難航している。とりわけ駅西(昔は「駅裏」と言われた)地区は、数多くの商業・雑居ビルが立ち並び、土地の権利関係は複雑で地権者も多い。ここは1964年の東海道新幹線の開業に向けて、大規模な再開発が行われた。あれから半世紀後、ふたたび「駅西大改造」である。

名駅界隈をまち歩きして、ビルに囲まれた空を見上げながらいろいろ考えさせられた。リニア中央新幹線2027年開業を前提にして、官民一体で大規模開発が進行している。

リニアは南アルプスをはじめ、とてつもない環境破壊が危惧され、住民団体が提訴した。それと、名古屋市の外郭団体がJR東海の命を受け「地上げ屋」のようなことをしていることだ。

変わりゆく街を眺めながら、またお地蔵さんに愚痴をこぼしたくなった。

先日、名古屋で会議があり、朝6時半の新幹線で新大阪から名駅に向かった。早めに出発したのは、「定点観測」している名駅西リニア新幹線予定地を歩くためだ。まず、椿神明社まで歩いた。リニア工事は、このあたりまで施工区域だと思う。なんだか殺伐とした名駅西で、この一角だけは落ち着きを感じる。

神社の裏側は空き地が広がり、「JR東海管理地」という掲示が。2年前よりJR管理地は増えているようだ。近くの住宅は「名古屋まちづくり公社」により、強引に立ち退きを迫られているという。

神社前の「椿魚市場」は朝早くから営業中だ。古くからの市場だと思うが、どうなるのだろうか。

名駅に近い「風俗店」などが並ぶ通りは、夜などはなんだか物騒だが、朝早いので閑散としていた。このあたりは、用地買収がとりわけ困難と言われているが、現在どのような状況なのだろうか。

これからも、名駅西リニア予定地「定点観測」を続けたい。



(2018年5月23日)